西洋古典籍の総合目録の作成規則の変遷

西川　和

nishikaw@2007.jukuin.keio.ac.jp

Ⅰ　西洋古典籍目録の総合規則

1. 西洋古典籍の総合目録

古典籍の目録は現代の図書の目録とは異なる規則で作られている。その目録規則は蔵書目録と総合目録を総合的に調べないと理解できない。英米ではG. R. PollardのSTC[1)2)]、D. G. WingのWing STC[3)4)]、ESTC[5)]といった総合目録が特に著名であり、高い評価を受けている。

STCは1640年までに、英国とその植民地で出版された印刷物と、英語で印刷された出版物を対象にした冊子体の目録である。1926年にG. R. PollardやA. W. Redgraveらによって編集された初版が、1976年から1991年にかけて初版を元にK.F. Pantzerらが改訂した第2版が、それぞれ出版された。

Wing STCはSTCのあと、1641年から1700年までを対象にした冊子体の目録である。1945年から1951年にかけてWingによる初版が、1972年から1998年にかけてWingとその死後を受け継いだTimothy J. Cristらによる第2版が出版された。

1978年に公開された*Eighteenth Century Short Title Catalogue*（ESTC）はWing STCのあと、1701年から1800年までを対象にした電子目録である。STCやWing STCに登録されていた資料のレコードも含め、*English Short Title Catalogue*（ESTC）となり、2006年以降はインターネットでも見ることができる。

本研究では総合目録の作成規則の内容を明らかにし、時代による変化を見ることで、変化の理由を考察する。

2. 西洋古典籍の総合目録の重要性

古典籍の目録の規則を見る際に、総合目録を扱う理由は3点ある。第1に、総合目録の編集・改版作業は古典籍の目録に影響を与えている。

第2に総合目録は古典籍の探索、同定、識別の際に利用されている。さらに目録作成の際にもつかわれており、古典籍の画像データベース*Early English Books Online*（EEBO）でもSTCやWing STCの番号を参照として用いている。

第3に総合目録では一般的な作成規則の特徴や書誌学の流れを反映して、時代とともに変化していると考えられる。そのため、総合目録の変化から一般の目録の作成規則を考える手掛かりをつかむことができる。

3. 古典籍の目録作成規則の歴史

Beth M. RussellはAACR、AACR2、ISBD（A）、BDRB、AACR2 1988年改版、DCRBを対象に、各規則そのものや目録規則に関する先行研究から、規則の特徴と、規則に影響を与えたものを

第1表　調査対象の総合目録

	STC(初版)	Wing STC(初版)	STC(第2版)	Wing STC(第2版)	ESTC
出版年	1926	1945-51	1976-91	1972-98	1978-
編集者	A.W. Pollard G.R. Redgrave 他	D.G. Wing	K.F. Pantzer A.W. Pollard G.R. Redgrave 他	D. G. Wing, T. J. Crist, J. J.Morrison 他	Committee for an Eighteenth-Century Short-Title Catalogue
媒体	冊子	冊子	冊子	冊子	電子媒体

みた[6]。

Russell は貴重書のための目録規則が必要な理由は、著作の内容と関連しない特徴をもとに本の正確な識別をすることと、アクセスポイントの識別と説明をすることであるとしている。古典籍目録が現代の図書の目録と異なっている点として、標題紙の転記、サイズの表記、注記、追加アクセスポイントをあげ、これらを中心に対象の目録規則の内容を調査し、古典籍の目録規則の変化をみた。そして目録規則の発展の理由には一般書の目録規則の発展、書誌学の慣習、技術の進歩があるとした。

4. 研究の意義

Russell が先行研究で調査したのは蔵書目録で使われている、明示された目録規則である。明文化されていない目録規則の研究をすることにより、目録規則の歴史を探り、現在の目録規則の根拠を導き出すことができる。本研究では明文化されていない規則を含めた、総合目録の作成規則全体を調査する。

古典籍の総合目録と蔵書目録では作成規則が違い、古い総合目録では既存の目録規則をそのまま用いずに、独自の規則を用いていた。ところが、現在は ESTC の作成規則として、古典籍の蔵書目録を作る際に使われている、AACR2 と DCRB を用いている。つまり、DCRB までの古典籍目録規則の発展をみるためには、Russell のみた目録規則と、総合目録の作成規則のそれぞれを見る必要があり、古典籍の総合目録の作成規則の歴史を研究する価値がある。

そして、古典籍の総合目録の作成規則の変化が、Russell が古典籍の目録規則の提示した一般書の目録規則の変化、書誌学の慣習、技術の進歩の 3 つからどのような影響を受けているのかを考察する。

Ⅱ　調査方法

1. 総合目録の作成規則の調査

調査対象とする総合目録は第１表に示した 5 種類である。まず、目録規則、目録の序文、関連文献を用いて明文化されている規則を明らかにする。明文化されている規則の情報源としては、STC と Wing STC ではいずれも、初版、第 2 版ともに序文に作成方法が書かれている。また、ESTC では目録作成規則が 4 度にわたり刊行され、現在は DCRB と AACR2 を用いている[7)8)]。また、特に STC と Wing STC では関連する文献をもとに作成規則を補強する。

次に明文化されていない規則を目録そのものの標目と記述から再構成する。それぞれの目録でどのような記述をされているかから、帰納的に考察する。

なお、ESTC の規則はそれぞれの版の差は少ないため、最初に公開された 1978 年版と現在用いられている DCEB を調査対象とする。

2. 変化の種類

作成規則を時代順に並べて内容の比較を行う。そして、内容が同じかどうかと、明文化されているかどうかを調べることで、どのような変化が起こっているのかを調べることができる。

3. 変化の理由の考察

総合目録は Russell の研究対象である図書館の蔵書の目録規則とは異なる性質があるため、独自の部分があると考えられる。したがって、Russell の提示した変化の理由のいずれに当てはまるのかと同時に、いずれにも当てはまらないならばどのような理由によるものかを考察する必要がある。

総合目録の作成規則がその時期の一般書の目録規則と同じように変化していれば、一般書の目録規則の変化が原因で総合目録の作成規則が変化したと考えられる。それまで書誌学の慣習に従っていなかった部分が書誌学の慣習に従うようになったのであれば、書誌学の慣習が原因だと考えられる。作成の手法や作成された目録の媒体がコンピュータをはじめとした科学技術の進歩によるものであれば、技術の変化が原因であると考えられる。

Ⅲ　目録作成規則と変化

1. 総合目録の作成規則

総合目録の作成規則の調査を行い、それぞれの規則が得られた。目録ごとに作成規則のまとめられ方は異なるが、調査結果をまとめるにあたって標目の選択、標目の形式、記述の総則、タイトル、サイズ、出版情報、所蔵情報、注記、版情報に大別した。調査の結果、得られた作成規則の件数をまとめたものが第2表である。各目録の作成規則の数には偏りがあり、数だけで単純な比較はできない。

2. 作成規則の変化

作成規則を変化の仕方をもとに分けると、変化していない規則、内容は変化していないが明示されるようになった規則、昔はあったが後になくなった規則、新たに増えた規則、一部の目録にのみある規則、昔からあったが内容が変化した規則の6種類に分けることができた。

第2表　作成規則の件数(単位:件)

	STC初版	Wing STC	STC2版	ESTC(78年版)	DCRB
標目の選択	8	11	9	9	-
標目の形式	9	10	11	12	12
総則	1	3	1	1	25
タイトル	22	22	22	22	34
サイズ	6	7	7	18	38
出版情報	14	24	27	20	-
所蔵情報	6	6	21	1	37
注記	22	4	41	19	23
版	2	2	2	5	7

そして、変化の種類ごとに主な規則をまとめたものが第3表である。たとえば、タイトルの記述部分がSTCとWing STCではタイトルの先頭の数語となっているが、ESTC以降はタイトル全体となっている。この変化の原因は技術の進歩によって媒体が紙の冊子体から電子媒体となり、情報を記述するスペースの制約が取り払われたことや、想定される利用者層が広がり、タイトルの最初の数語で著作を判別できる書誌学の専門家以外の利用を容易にするためと考えられる。

第3表では代表的なものを例示しているが、実際には標目選択で7種類、著者名の形式で16種類、記述総則で8種類。タイトルで18種類、サイズで9種類、出版情報で25種類、所蔵情報で3種類、注記で13種類、版情報で6種類の変化が得られた。

第3表　作成規則の変化の例

変化の種類	項目	原因
変化していない	個人著作の標目の選択	
明示されるようになった	著者名の情報源	制作者の変化
昔はあったが後になくなった	タイトルの後ろに記述する項目	一般書の目録規則の変化
新たに増えた	大きさの表記	一般書の目録規則の変化
一部の目録にのみある	版型の拡張表記	書誌学の進歩
内容が変化した	団体著作の標目の選択 タイトルの記述部分 著者の関連情報	一般書の目録規則の変化 技術の進歩、書誌学の慣習 利用者の変化

Ⅳ　総合目録の作成規則が変化した理由

一般書の目録規則の変化の影響としては団体著作の標目の選択があり、STC では団体著作の標目として 91 箇条目録規則に従って地名を用いているが、Wing STC 以降は 39 箇条目録規則に従って団体名を用いている。

技術の進歩の影響は、紙媒体から電子媒体への移行に伴って多くの情報を目録に盛り込むことができるようになり、STC や Wing STC はタイトルの先頭の数語を用いているが、ESTC 以降はタイトル全体を記述していることからわかる。

書誌学の慣習を取り入れている面として、書誌学では正確なタイトルの転写を求めており、徐々に目録の記述に正確さが求められている。

それぞれの目録規則に特有の理由による変化として、STC と Wing STC の注記の量の差があげられ、同じ 3 冊の冊子体目録でも、収録件数の多い Wing STC では注記の量を抑えている。

書誌学の進歩により版型の拡張表記がなされるようになった。

作成者の変化により明文化されていなかった規則が明文化され、誰でも同じ品質の目録が作れるようになっている。

Wing STC までは著者の関連情報として年長か年少かを記述しているが、ESTC では生没年を記入している。これは想定される利用者が複数の著者を知っている人から、より広い層に向けて変化しているためである。

今回の調査の結果、総合目録の作成規則が変化した理由として Russell の提示した一般書の目録規則の変化、技術の進歩、書誌学の伝統という 3 種類の理由以外に、それぞれの総合目録に固有の理由、書誌学の進歩、作成者の変化、想定する利用者の変化の 4 種類があるとわかった。

参考文献

1. Pollard, A.W. A short-title catalogue of books printed in England, Scotland, & Ireland and of English books printed abroad, 1475-1640. London : Bibliographical Society, 1926, 609p.
2. Pollard, A.W. A short-title catalogue of books printed in England, Scotland, & Ireland and of English books printed abroad, 1475-1640. 2nd ed. London, 1976-1991, 3 冊.
3. Wing, Donald Goddard. Short-title catalogue of books printed in England, Scotland, Ireland, Wales, and British America, and of English books printed in other countries, 1641-1700. New York : Index Society, 1945-1951, 3 冊
4. Wing, Donald Goddard. Short-title catalogue of books printed in England, Scotland, Ireland, Wales, and British America, and of English books printed in other countries, 1641-1700. 2nd ed. New York : Index Committee of the Modern Language Association of America, 1972-1988, 3 冊
5. The British Library, English Short Title Catalogue, http://estc.bl.uk/F/?func=file&file_name=login-bl-estc
6. Russell, Beth M. Description and Access in Rare Books Cataloging: A Historical Survey. Cataloging & Classification Quarterly. 2003, vol. 35, no. 3, P. 491-523.
7. Alston, R. C. : Jannetta, M. J.. Bibliography, machine readable cataloguing, and the ESTC. British Library, 1978, 246p.
8. Association of College and Research Libraries, Library of Congress. Descriptive cataloging of rare books. Washington, D.C. Cataloging Distribution Service, Library of Congress, 1991. 113 p